

平成22年度 第10回病院局経営戦略会議概要

日 時：平成23年1月14日（金） 午後3時00分～午後4時45分
場 所：県庁10階 管理者室
出席者：病院局 病院事業管理者，病院局長，総務課長，
経営企画課長 ほか
病院 各県立病院長，中央病院副院長，各県立病院看護局長，
各県立病院事務局長 ほか

(1) 平成22年度決算見込み（11月末）について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成22年度の決算見込み（11月末）について示す。

【質疑等】

管理者：退職給与引当金を何%にするかという基本的なルールはあるのか。

病院局：退職金を25%と見込むが，計画的に引当はしていない。退職給与金を固定して残りを引当金にしている。平成25年度以降，引当の義務化が始まる。

管理者：引当ができるような経営体力が全適後6年の間についてのことだ。

管理者：海部病院はどこで収益が伸びたのか。

病院局：入院及び外来収益が約1億円伸び，費用は約6,000万円の増。実質収支で約6,400万円の増となっている。

管理者：明らかに努力の成果が出てきた。全適開始年度の平成17年度には約8億6千万円の不良債務を抱えていたものが，平成19年度には内部留保資金をもてるようになり，それが今年度末には約30億円にまで増加している。これから幹部職員に留意しておいてもらいたいことは，「単年度決算が赤字か黒字か」ではなく，「内部留保資金をいくら貯めることができたか」である。中央病院と三好病院の改築を行っても，不良債務を出さないためには，減価償却が始まる平成25年度までに，できるだけ多くの貯金をしておかなければならない。当面の，目標は，「平成23年度末に内部留保資金を40億円にする」こと。また，約マイナス6億7千万円の実質内部留保資金をゼロにするという目標も，しっかり頭に入れておいてほしい。

(2) 「県立病院を良くする会」事前プレゼン

【説明】中央病院

患者満足度の向上を目指した取り組みとして，中央病院検査技術科が中心となって作成した「検査手帳」について説明する。

【質疑等】

病院局：中央病院は病院の取り組みとして、「検査手帳」の一点に絞っている。2月3日に開催される「県立病院を良くする会」で、委員の方から「検査手帳」について質問が出ると思うので、「検査手帳」の現物を用意してほしい。

管理者：他はやっていない取り組みである。マスコミには、是非取り上げて、報道してもらおう。「検査手帳」のサンプルは「良くする会」に用意できるのか。持って帰ってもらっても良い。口コミで流してもらおう。

管理者：この「検査手帳」について、素晴らしいところが二点ある。まず、一点目は、管理者や院長からの指示ではなく、検査技術科自らが主体となって作成した点である。検査技術科は検査技術科としての理念を掲げ、その実現のために行動し、PDCAサイクルを回すことにより、患者サービスのための取り組みがあまりできていないことが判明し、それが「検査手帳」を作るきっかけとなっている。業務内容や実績の整理整頓をしっかりとやってくれた結果だ。二点目は、「ファイン・チームワーク」である。検査技術科だけでなく、放射線技術科、看護局、事務局も含めて数多くの部門がこの手帳の作成に関わっている。医師だけでなく、コメディカルでも病院を引っ張っていけるという良い例であり、まさに、我々の共通言語である「ファイン・チームワーク」の実践だ。この取り組みを病院局内部だけにとどまらず、外に出して県民に知ってもらうことが大事だ。その知ってもらうチャンスが「県立病院を良くする会」である。三好病院、海部病院についてもそれぞれの地域性、医療特性、病院規模を活かしたものを作ってほしい。

【説明】三好病院

三好病院における平成22年度の主な動き及び取り組みについて説明する。

【質疑等】

管理者：分娩に関しては、徳島大学病院長が委員として出席される予定なので、分娩を再開したいという意思をしっかりと出してほしい。三好病院は産科の分娩再開にかけているということ伝えてほしい。

管理者：医師が少ない中で頑張っていることをアピールできれば良いのだが。2次保健医療圏の見直しも始まっているが、四国中央部の患者を三好病院に引き込む勢いで、患者の県外流出に歯止めをかけるようやっていることを伝えてほしい。

病院局長：医師1人当たりの年間救急患者数等を出して、頑張っていることを委員の方に伝えてほしい。

【説明】海部病院

海部病院が今年度から開始した訪問診療・看護・リハビリや早朝リハビリテーション等の取り組み及び今後取り組んでいく課題について説明する。

【質疑等】

管理者：分娩については、継続してできるように。マスコミが取り上げてくれるようなポイントについて、メリハリをつけたプレゼンをしてほしい。

【説明】 病院局経営企画課 経営戦略担当

「徳島県病院事業第二次経営健全化計画」の改訂について、新たに計画に反映させる項目について説明する。

(3) その他

・次月分（2月分）の病院局経営戦略会議の議題案について

【説明】 病院局経営企画課 経営戦略担当

次月分の「経営戦略会議」の議題について説明する。

【質疑等】

管理者：平成23年最初の経営戦略会議だったが、新年の挨拶の中で、今年テーマとして「人から人へ、世代から世代へ」を心に留めてやってほしいとお願いした。より良い歴史と伝統は「人から人へ、世代から世代へ」受け継がれることによって作られる。我々は前の世代が遺してくれた良いところは引き継ぎ、そうでない部分には改善を加えながら、共通の価値観であり行動指針でもある基本理念『県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる』の実現に向けて、“県立病院は三つでひとつ”と“ファイン・チームワーク”というスローガンのもと、すべての職員が心一つにベクトルをあわせ、努力を積み重ねてきた。その結果、病院事業4年連続の黒字決算という「経済性の発揮」とともに、中央病院と三好病院の改築や海部病院での分娩再開など、本来の目的である「公共性の確保」にも一定の成果を上げ、まさに、「組織は人なり」、「組織は理念なり」を実感することができた。

しかし、県立病院は今後も10年20年とずっと続いていく。「我々が運営している間だけ良ければいい」では、次の世代の県民や職員が困ることになる。決して、次の世代に負の遺産を残してはいけない。次の世代の県民が「徳島県に住んで良かった！」と、次の世代の職員が「県立病院で働いて良かった！」と心から言える世界を創造することが必要だ。そのような組織を創る責任が我々にはある。“人から人へ、世代から世代へ”を胸に、この一年間、一生懸命頑張りたい。